

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県央会場＞

科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 初めて通う場所への不安、そこで起きる出来事に対する子どもたちの心情に対しての育成支援の在り方を学びました。年齢の違う子どもたちが遊びや生活をする環境作りとして、子どもの関わりや保護者からの情報等から「子どもの普段」をよく知ることが大切であり、その土台のもとで見通しをもった主体的活動へと生活と遊びが広がっていくと理解できました。
- ◆ 育成支援という言葉に、子どもと支援員、保護者、学校、地域のすべての連携による支援の大切さを確認することができた。また、ただ支援といつても子どもが主体的でかつ安心感をもって生活できるように、支援員の日々の寄り添いや尊重を通した信頼関係の構築がなければならないことが分かり、忘れることがないよう胸に刻みたいと思った。子ども一人ひとりへの理解も併せて大事にして関わっていきたいと思う。
- ◆ 子どもたちが楽しく喜んで放課後児童クラブに通えるよう、子どもたちが率直に自分の気持ちや意見を表現できて、安全に安心して過ごすことができるよう環境を整えるとともに、緊急時にも適切に対応できるよう備えることが重要であると学びました。また、放課後児童クラブに通う子どもの適切な育成支援のためには、職員同士の連携や信頼関係の構築、さらには保護者や学校などの関係機関や地域社会との連携や信頼関係の構築が大切であることを理解できました。
- ◆ 学童とは子どもの健全な育成と遊びおよび生活の支援をするところであると学んだ。遊びは、自発的、自主的に行われるものであり、子どもにとって認識や感情、主体性等の諸能力が統合化される不可欠な活動である。子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面への配慮が必要であり、子どもが見通しをもって主体的に遊んだり生活したりできるようにする必要があることも分かった。
- ◆ 今回の研修で育成支援について学び、家庭、学校、地域等の連携の重要性を再認識しました。特に職員間の情報共有の大切さを実感し、日々の記録の共有や、検討して改善を重ねることが支援の質を高めると感じました。また、必要な情報をすべての家庭に伝えることが保護者の安心につながると分かりました。今後もすべての子どもに心を配り、安心して過ごせるよう援助していきたいです。